

食育の推進に関する施策の進捗状況

(平成26年度実績及び課題等)

平成27年6月26日

1 富山の「食」に着目した「富山型食生活」の確立

(1) 富山型食生活の普及など県民運動の展開

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
①富山型食生活モデルメニューの確立・普及	ミニコミ誌等によるメニューの普及PR	インターネット等によるメニューの普及PR	イベント等によるメニューの普及PR

【取組実績】

- 旬の地場産食材や伝統的な食文化を活かした栄養バランスの良い「富山型食生活」や希薄になりつつある郷土料理等の食文化の伝承を図るため、食育リーダーによる普及のほか、若者向け食育啓発イベント(7回)や「越中とやま食の王国フェスタ 2014～秋の陣～」やSNS (facebook : 33回、ブログ : 21回) で、若い世代をはじめとした多くの県民への普及を図った。

○イベント、SNSによる富山型食生活の普及・啓発



(若者向け食育啓発イベント)



(「越中食の王国フェスタ 2014～秋の陣～」)



(SNS)

【課題及び対応】

- 引き続き、家族参加の料理教室の開催、食育リーダーによる講習会の開催のほか、四季折々の地場産食材を使った栄養バランスのよい「富山型食生活」の普及・PR活動を展開する。

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
②とやま食育推進フォーラムの開催	1回	1回	1回

【取組実績】

- 地域などにおける食育の実践活動を一層強化するため、「食育推進フォーラム」を開催し、約 300名が参加した。

日時：平成 26 年 5 月 27 日 (火) 14:30～16:00

場所：富山県総合福祉会館 サンシップとやま

講演：「生活習慣病と日本型食生活」 上谷 律子氏



○食育推進フォーラム



○講演 (上谷律子氏)

【課題及び対応】

- ・第2期食育推進計画や食育の推進・実践に関する普及啓発を図るため、食育推進フォーラムを引き続き開催する。

	H25実績	H26実績	H27計画
③県食育推進計画の普及・啓発	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組、 ミニコミ誌等)	マスメディアやインターネットを活用した幅広い周知 (県政番組、SNS等)	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組)

【取組実績】

- ・県政番組の「こんにちは富山県です」やSNS (facebook、ブログ) など、マスメディアやインターネットを活用した普及・啓発を実施し、幅広い県民運動の展開を図った。
- ・県内各地域の食育関係団体の「健康メニュー」や「地産地消メニュー」、「とやまの家庭料理」など、地域で実践されているメニューについて、ホームページに掲載するほか、各種研修会やイベント等で普及啓発を図った。
- ・食育や地産地消の普及推進を図るため、地域における農産物の生産状況や食育の取り組み状況について、現地研修会を開催した。



○県政番組での県内各地の食育実践を紹介



○現地研修会

【課題及び対応】

- ・引き続き、各種団体等の開催する会議・研修会、イベント等に参画するとともに、県政番組「こんにちは富山県です」での情報提供などマスメディアを活用した普及・啓発を実施し、幅広い県民運動の展開を目指す。

(2) 地産地消の推進

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
①「越中とやま食の王国フェスタ」の開催	2回	2回	2回

【取組実績】

- ・『食のとやまブランド』をそだてる、つながる、ひろげる」をテーマに、平成 26 年 10 月 25 日（土）・26 日（日）に「越中とやま食の王国フェスタ 2014～秋の陣～」を、平成 26 年 2 月 7 日（土）・8 日（日）に「越中とやま食の王国フェスタ 2015～冬の陣～」を開催した。
- ・「秋の陣」では、富山テクノホール（富山市）を会場に、富山の海・野・山の幸を一堂に集め、旬の県内野菜を販売する「とれたて！マルシェ」、「とやま食の匠」による創作料理等の実演、「オリジナル巻き寿司！」の販売、富山の食文化や郷土料理を体験する「食の体験ステーション」、県産食材を使った和洋中の逸品料理「おらっちゃんのレストラン」などの販売、食等に関するクイズショーなど多彩な催しを繰り広げ、訪れた約 30,000 人に対し、富山の食の魅力をアピールした。
- ・「冬の陣」では、オークスカナルパークホテル富山（富山市）において、「越中料理と地酒を楽しむ会」を開催し、参加した 205 名に、県産食材を使った越中料理と県内の酒蔵による地酒を堪能してもらうとともに、グランドプラザにおいて「越中とやま冬の味覚市」、八尾地区の方々の指導の下、「親子 de そば打ち体験」を開催した。

○「越中とやま食の王国フェスタ」



（秋の陣 富山テクノホール）



（冬の陣 「越中料理と地酒を楽しむ会」の料理）

【課題及び対応】

- ・引き続き、「越中とやま食の王国フェスタ」の「秋の陣」及び「冬の陣」を開催し、「食のとやまブランド」の県内外への発信を図る。
「秋の陣」：収穫の恵みに感謝しつつ、生産活動等の成果や食の魅力を県内外に発信
「冬の陣」：「食の語り部」の活動や「越中料理」等の魅力を県内外に発信

	H25実績	H26実績	H27計画
②学校給食における地場産品の活用促進 (市町村推進組織の運営、地場産野菜・果実を使用した特別給食の実施、地場産食材の活用促進等に対する支援)	活用実績 565 トン (107 品目) 特別給食※ 276 校	活用実績 585 トン (109 品目) 特別給食※ 274 校	活用計画 700 トン以上 (H33 目標) (109 品目) 特別給食※ 274 校

※「元気とふれあいの学校給食づくり事業」による特別給食。

【取組実績】

- ・「地場産野菜、果実等を活用した特別給食」の充実・強化や生産者等と児童、生徒との交流活動を進め、地場産食材の活用促進や地元の食材に対する知識、理解を深めた。
- ・また、米の多様な利用について理解を深めてもらうため、学校給食に対する米粉パンの供給に支援した。県下の全小・中学校では、県産コシヒカリによる米飯給食を週平均3.7回実施した。

【課題及び対応】

- ・「地場産野菜、果実等を活用した特別給食」の実施などに引き続き取り組む。

○「元気とふれあいの学校給食づくり事業」を活用した協議会運営・特別給食・生産者との交流活動（立山町の事例）



	H25実績	H26実績	H27計画
③子どもたちに対する魚食の普及			
・ 高校、短大生向けのセミナー開催	6回	5回	5回
・ 小学生向け副読本「ふるさと富山湾」配布	10,300部	10,000部	10,000部
・ 県産魚学校給食普及事業 学校給食食材提供	32.1万食	35.5万食	40万食

【取組実績】

- ・ 県内の高校生・短大生（富山短大、滑川高校、伏木高校、新湊高校 計5回 159名）を対象に魚食の大切さを教える「さかなの栄養に関する知識の習得」及び「おさかなの裁き方の実習」のセミナーを開催した。
- ・ 富山湾で獲れる魚や水産業の仕組み及び漁場環境を保つための取組みについて理解を深めてもらうことを目的に「ふるさと富山湾～ふしぎの海のおさかな読本～」を10,000部作成し、社会科の副読本として活用してもらうため、県内小学校の5年生及び担当教諭に配布した。
- ・ 富山湾の美味しい魚を知ってもらい、富山湾産魚の消費拡大を図るため、財団法人富山県学校給食会等と連携し、県下小学校、中学校等にフクラギの切身等を給食食材として提供した。

【課題及び対応】

- ・ 県産魚を知り県産魚に親んでもらうため、引き続きセミナーの開催や副読本の配布、学校給食への食材提供に取り組む。

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
④直売所及びインショップにおける農産物販売額	販売額 2,873 百万円	販売額 3,163 百万円	販売額 3,200 百万円 (H33 目標)

【取組実績】

- ・県内の消費者が生産者・産地の「顔が見える」県産品に触れることができる機会をより多く確保するため、直売所やインショップでの農産物販売への支援を行った。
- ・これらの結果、県内の直売所及びインショップの店舗数及び販売金額は、近年、着実に増加している。

	平成 14 年度	→	平成 21 年度	→	平成 26 年度
店舗数	75 店舗		165 店舗		191 店舗
販売金額	387 百万円		1,939 百万円		3,163 百万円



【課題及び対応】

- ・現在、直売所及びインショップにおいて販売されている品目、量、時期は限られており、消費者ニーズを必ずしも十分には応えきれていないことから、これまでのシステムを発展させ、生産者をはじめ、市場等の流通関係者、小売業者等が一体となって、地場農産物を安定的に生産・供給するモデルの構築に引き続き取り組む。

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
⑤女性起業組織等への活動支援	女性起業件数 164件 (37件)	女性起業件数 169件 (37件)	女性起業件数 177件 (40件)

※括弧内は販売額 1,000 万以上起業件数

【取組実績】

- ・地場産品等の生産や加工に意欲的に取り組む農村女性起業組織のリーダーや新たに起業を志す農村女性を対象に、マーケティングや経営管理、加工の基礎技術を習得するスキルアップ講座を開催した。経営発展をめざし 23 名が熱心に研修し、受講者間の情報交換や自主的なネットワークも生まれるなど活発な取組みがなされた。
- ・また、女性起業の更なる発展を図るため、商品開発やサービス、販路拡大などへのチャレンジを支援する農村女性チャレンジ事業を実施した（支援対象：5 件）ほか、新たに起業活動の拡大に必要な機器の導入や加工施設の整備等を支援する起業拡大支援事業を実施し（支援対象：4 件）、各組織で農産物を活用した新商品の開発や、消費者の求める商品づくり、農産物直売所や加工施設の整備等による地元消費者との交流促進など意欲的な取組みが行われた。
- ・商品開発を行う上で、民間の専門家を女性起業組織等へ派遣し（派遣対象：6 件）、より完成度の高い商品づくりを目指した。
- ・起業活動が定着してきた起業組織に対しては、より安定的な企業運営を目指し、販売力の強化等への総合的な支援をする先進モデル企業育成事業を実施し（支援対象：2 件）、生産拡大のための大型機器を導入して効率的な製造工程の実現や、組織のロゴマークやパンフレットの作成等が行われ消費者への PR 活動に役立てるなど、これまで以上に経営強化に対する取組みが行われた。



「おらっちゃんの店特製ランチ」
(氷見市・「ウエーブ」)



「薔薇風呂ギフト」
(小矢部市・「メルヘン工房」)



「姑のたくあん」
「嫁のはりはり」
(入善町・「中島由起子」)



「福楽来寿司」
(入善町・「寺田晴美」)

○「越中とやま食の王国フェスタ 2014～秋の陣～」において、女性農業者が運営するカフェ・食堂をPR



○農村女性起業者が、来場者に新商品や試作品等でアンケートを実施

- ・「越中とやま食の王国フェスタ 2014～秋の陣～」では、農村女性が開発した新商品を展示紹介PRするとともに、来場者へ商品に対する意見を聞き、今後の商品づくりにとって貴重な意見を得ることができた。
- ・各農林振興センターにおいては、このような女性起業組織の商品開発や直売所・インショップの品揃えの充実、学校給食への食材供給等の地産地消活動などを重点的に支援した。

【課題及び対応】

- ・女性のパワーを活かした意欲的な起業活動を着実に展開し、直売や農産加工等の取組を通じ地域農業が活性化することが重要である。
- ・このため、引き続き新たな女性起業組織の育成を図るとともに、組織の発展段階に応じた取組みを促進するため、商品開発や事業規模拡大の支援を進めるほか、さらに実践的な商品開発能力を養う「農村女性スキルアップ講座」を引き続き開催するとともに、企業への発展をめざした取組みへの総合的支援を充実する。また、農村女性起業の商品等に関する技術課題を解決するに当たり、専門家のアドバイスを得られる勉強会等を開催し、より完成度の高い商品づくり、また起業経営の安定・発展につなげる。

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
⑥富山県ふるさと認証食品（Eマーク食品）の認証	申請に基づき審査 ・年 3 回 ・新規認証 18	申請に基づき審査 ・年 2 回 ・新規認証 11	申請に基づき審査 (年2回程度)

- ・消費者の食品安全への関心の高まりを背景に、平成 12 年度から「富山県ふるさと認証（Eマーク）食品」の認証を行っている。

< E マーク商品の認証要件 >



- ・主要原材料は富山県産 100%であること
- ・製造工場等が富山県内にあること
- ・食品としての品質が優れていること

○H27.3 月現在の認証数
31 品目 323 商品

	H25 実績	H26 実績	H27 計画	
⑦地産地消県民運動の推進				
ア)「とやまの旬」応援団の 募集・登録	個人	1,955 名	2,453 名	5,000 名 (H33 目標)
	企業・団体	1,119 団体	1,172 団体	1,500 団体 (H33 目標)
イ) 地産地消県民交流フェア (H27 : とやまの食マルシェ)	1 回	1 回	1 回	
ウ) 県産品購入ポイント制度	44 日間	44 日間	44 日間	

【取組実績】

- ・積極的に地産地消に取り組む企業や団体、個人を応援団として登録し、県民ぐるみの地産地消運動を広げていく。
- ・地産地消の大切さや地元農林水産業への理解を深めるため、「第 5 回地産地消県民交流フェア」を開催し、県内各地の JA 女性部や農村女性グループ、流通・販売業者が農産物等の直売や地域資源を活用した新商品を紹介し、するとともに 5 周年記念事業として県外客向けの企画も実施したところ約 1 万 3 千人の来場があった。

日時：平成26年7月6日（日） 10:00~16:00
 場所：親水広場（富岩運河環水公園東側） 富岩水上ライン乗船場

○農産物の直売、地域資源を活用した新商品の展示販売

- ・県内各地から関係団体が出店
- ・環水公園周辺ホテル・レストランとの連携企画

○ステージイベント

- ・勅使川原郁恵さん(フードアナリスト・元ショートトラックスピードスケート日本代表)スペシャルトークショー
- ・特産品や新商品の紹介・PR
- ・地産地消クイズ、大じゃんけん大会(JA 青壮年協)など



親水広場の賑わい風景



勅使川原郁恵さんのトークショー

- ・県民に県産品を優先的に選択してもらおう動機付けとなるよう「県産品購入ポイント制度」を実施したところ、18,365件の応募があった。

実施概要：平成26年10月4日～11月16日

食品スーパーマーケット・百貨店、青果店、加工食品製造直売所（384店舗）
 青果・鮮魚・精肉・加工食品に貼り付けてある「地産地消シール」
 「プライ斯拉ベル」を10枚集めて応募



○県産品に貼られる地産地消シール



○サービスカウンターや売場での応募用紙・応募箱の設置



【課題及び対応】

- ・引き続き、地産地消「とやまの旬」応援団の登録を促進するとともに、応援団が提案する自主的な地産地消活動に対して支援する。
- ・消費者と生産者・流通販売業者との交流の場として「地産地消大商談会～とやまの食マルシェ～」を開催し、一日農家カフェやステージイベント、県産品の展示・販売などを通じ、県民ぐるみの地産地消を推進する。
- ・「県産品購入ポイント制度」については、県産品へのシール貼付やポップの充実、食料品スーパーや青果店に加え農産物直売所など対象店舗の拡充に努め、消費者へのさらなる浸透に努める。

(3) 魅力ある食文化の継承・創造

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
①新たな「とやま名物」商品開発	農商工連携事業による食品関係の取組 6 事例	農商工連携事業による食品関係の取組 6 事例	農商工連携事業による新商品開発等支援
	6 次産業化モデル育成事業による取組 6 事例	6 次産業化モデル育成事業による取組 7 事例	6 次産業化とやまの魅力発信事業による新商品開発等支援
		「富のおもちかえり」商品開発 12 商品	「富のおもちかえり」商品開発 3 商品程度

【取組実績】

- ・農林漁業者と中小企業者が連携して行う新商品・新サービスの開発や販路開拓を支援し、平成 26 年度は、陸上養殖の富山県産サクラマスを使用したますの寿しなど 6 件の商品開発・販路開拓の取組みが行われた。
- ・農林漁業者が自ら行う新商品・新サービスの開発や販路開拓(6 次産業化)を行う県単独の支援制度により、7 件の取組みについて支援を行った。

○H26 年開発商品



ますの寿し



シューマイ



サトイモコロッケ



へちま美人茶

- ・県産の農林水産品やその加工品を発掘し、味やパッケージに磨きをかけ、思わず手にとり、持ち帰りたくなるような魅力あるお土産づくりに取り組み、「富のおもちかえり」商品として 5 分類 12 商品の開発を行った。

○H26 年開発商品



「富のおもちかえり」商品

押し寿司、ます寿し、オイル漬ピクルス、かまぼこ

【課題及び対応】

- ・6 次産業化や農商工連携を一層推進するため、新商品開発等への支援を引き続き実施するとともに、農林漁業者と中小企業者のマッチングの機会を創出し、積極的な新規案件発掘を行う。
- ・「富のおもちかえり」商品の開発については、富山の食文化のひとつである「昆布」を使った商品などの開発に取り組むとともに、できあがった商品の更なる知名度の向上や販売促進を図るため、県内外で積極的に PR を実施する。

	H25実績	H26実績	H27計画
②「とやまの食」を普及する人材の認定	推薦に基づき選考 12個人・団体	推薦に基づき選考 4個人・団体	推薦に基づき選考 5個人・団体程度

【取組実績】

- ・食のとやまブランドを支える人材を育成するとともに、とやまの食の魅力を県内外に発信するため、「とやま食の匠」(特産の匠・伝承の匠・創作の匠の3部門)として新たに4個人・団体を認定した。

○H27年3月現在の認定数

特産の匠：	74個人・団体
伝承の匠：	57個人・団体
創作の匠：	34個人
計	165個人・団体

- ・学校、企業、団体等からの依頼に応じて、「とやま食の匠」を講師として派遣した（H26年度の派遣実績 計32回）。

【課題及び対応】

- ・「とやま食の匠」の認定を進めるとともに、学校や企業、地域住民等への「とやま食の匠」の派遣を促進するなど、制度の充実を図る。
- ・「越中とやま食の王国ホームページ」等を活用し、制度の普及啓発を図る。

	H25実績	H26実績	H27計画
③「とやま食の街道」の魅力充実	ツアー商品化活動(パンフレット配布)	ツアー商品化活動(パンフレット配布)	ツアー商品化活動(パンフレット配布)

【取組実績】

- ・「とやま食の街道」のクーポン付きリーフレットを、県内外のイベント等で配布した。

○「とやま食の街道」の関係施設と食の語り部

街道名	関係施設数	食の語り部
日本の味・とやま昆布街道	26施設	25名
神秘の海・富山湾きときと街道	36施設	38名
心のもてなし・とやま里山料理街道	47施設	44名
計	109施設	107名



【課題及び対応】

- ・引き続き、「食の語り部」の人材や組織の充実を図る。
- ・個人客をターゲットとした「食の街道」施設への誘客を一層図る。

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
④越中料理のブランド化の推進	「越中料理」のPR	「越中料理」のPR	「越中料理」のPR

【取組実績】

- ・平成 27 年 2 月 7 日にオックスカナルパークホテル富山（富山市）において、「越中とやま食の王国フェスタ 2015～冬の陣～ 越中料理と地酒を楽しむ会」を開催し、参加した 205 名に、県産食材を使った越中料理と県内の酒蔵による地酒を堪能してもらった。

【課題及び対応】

- ・「越中とやま食の王国フェスタ」や「越中とやま食の王国」ホームページ等で、越中料理の普及・PRを図る。

2 家族そろった楽しい食事で健全な食生活の実現

(1) 家族そろった健全な食生活の実現

	H25実績	H26実績	H27計画
①家庭教育かわら版の刊行	各号に掲載 7万部配布	各号に掲載 7万部配布	各号に掲載 7万部配布

【取組実績】

- ・家庭教育かわら版は年2回、幼稚園、保育所、小学校1・2年の子どもの保護者に配布(約7万部)している。

○平成26年「秋・冬号」一続けてみよう よりよい生活習慣一



【課題及び対応】

- ・食育の実践に向け、家庭教育かわら版を活用した食に関する関心の喚起と正しい知識の普及を引き続き実施する。

	H25実績	H26実績	H27計画
②とやま食材ふれあい講座の開催	206回 (13,344人)	219回 (10,298人)	8市町にて開催

【取組実績】

- ・地場産食材を用いた料理教室や農林水産物の加工体験などを、子どもと地域住民が一緒に行う「とやま食材ふれあい講座」の開催を支援した。(市町村に対し、開催経費の1/2を助成)
- ・平成26年度は、8市町において計219回の講座が開催され、地域の園児・小中学生、保護者、地域住民の合計10,298人が参加した。
- ・講座の具体的内容としては、地場産食材を用いた料理教室や地域の伝統食の調理のほか、農作業体験及び農産物加工体験の組み合わせや、年間を通じた様々な地域食材に関する体験講座など、地域の特色を活かした取組みも見られた。

○とやま食材ふれあい講座での農作業・調理体験(南砺市の事例)



【課題及び対応】

- ・引き続き、地域における食育を推進するため、子どもと地域住民が一緒に農作業や料理等を体験する講座を実施する。

		H25 実績	H26 実績	H27 計画
③三世代ふれあいクッキングセミナーの開催	開催回数	101 回	101 回	100 回
	参加人数	3,826 人	3,664 人	4,300 人
	〔 内訳 子供 保護者 祖父母〕	1,905	1,718	2,000
		904	853	1,200
1,017		1,093	1,100	

【取組実績】

- ・食を通じたふれあいの輪を地域に広げ三世代の交流を推進する場を提供するとともに、日頃の食生活を振り返るきっかけとなる「三世代ふれあいクッキングセミナー」を開催したところ、3,664 人の参加があり、各世代を通じて参加者の好評を得た。

○三世代ふれあいクッキングセミナー（食改協）



【課題及び対応】

- ・三世代のふれあいを通じて食べものを大切にする心などを伝えるとともに、各世代が健康づくりのための食事について学び、幼い頃から望ましい生活習慣を身につけられるよう、セミナーの一層の推進を図る。

		H25 実績	H26 実績	H27 計画
④富山型食生活普及事業(いきいきとやま食育クッキング)				
ア) 市町村中央研修会	開催回数(15 市町村)	25 回	25 回	25 回程度
	参加人数 (推進員)	766 人	781 人	750 人以上
イ) 地域伝達普及講習会	開催回数	25 回	25 回	25 回以上
	参加人数	528 人	843 人	750 人以上

【取組実績】

- ・市町村の推進員を対象に中央研修会を実施し、この中で郷土料理等の調理実習を行うなど地域で普及活動を行うときのポイントを確認した。
- ・富山型食生活を確立・普及するため、地域の一般住民を対象に、郷土料理や旬の地場産食材を用い、地域の食文化を生かした栄養バランスのよい料理を普及する富山型食生活普及事業「いきいきとやま食育クッキング」を実施した。（富山県食生活改善推進連絡協議会へ委託）

		H25 実績	H26 実績	H27 計画
⑤若者世代に対する食育講座の開催	開催回数	13 回	13 回	10 回以上
	参加人数	398 人	351 人	1 回30 人程度

【取組実績】

- ・朝食の欠食、外食やインスタント食品への依存、女性のダイエット志向など、特に若者世代（30 歳代まで）の食生活に課題が多いことから、高校、専門学校、事業所等に講師を派遣し、「食生活」に関する正しい知識を普及・啓発するための講習会を開催した。

○若者世代に対する食育講座



【課題及び対応】

- ・より幅広い若者世代に対して食育を普及・啓発するため、中・高校生、大学生をはじめ若い会社員等を対象に富山版食事バランスガイドや栄養成分表示を活用した講習会を開催するとともに、学園祭などイベントに出向き指導相談等を行う。

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
⑥食生活改善チェックシートの作成・活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用 (若い男性及び女性向け作成)	食育リーダー等による普及、イベントでの活用 (シニア世代向け)	食育リーダー等による普及、イベントでの活用 (中高年男性向け)

【取組実績】

- ・食事バランスガイドを活用した食事内容の点検や食生活のポイントを確認できる食生活改善チェックシートを作成し、食育リーダー等による普及、「越中とやま食の王国フェスタ 2014～秋の陣～」等における活用等により食育の実践の普及に努めた。
- ・平成 26 年度は新たに、シニア世代向けの食生活改善チェックシートを作成した。



【課題及び対応】

- ・中高年男性向けに、食生活において注意すべき点を整理したチェックシートを新たに作成し、普及啓発に努める。

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
⑦外食産業等と連携した普及・啓発 (地域の外食産業や食品スーパー等と連携した富山型食生活の普及・啓発事業)	訪問店舗数 113 店舗	訪問店舗数 123 店舗	訪問店舗数 100 店舗

【取組実績】

- ・ 県民の健康づくりを支援する「健康づくり協力店」として登録された 359 店舗のうち、飲食店とスーパー等 123 店舗の巡回訪問を行い、富山型食生活モデルメニューの配付、食事バランスガイド等の普及・啓発を行った。(富山県栄養士会へ委託、厚生センター連携事業)

○飲食店のメニューやお惣菜の栄養表示の例

←寿司屋での表示例

【1パックの栄養価】

エネルギー	631kcal
たんぱく質	26.1g
脂質	6.4g
炭水化物	112.0g
食塩相当量	2.7g

新鮮な魚介類で良質なタンパク質を!!
野菜たっぷりの味噌汁と一緒に食べる
ことで栄養バランスもアップ!!

作成：富山県中部厚生センター
富山県栄養士会

天竺のえび粉のやみくもに、旨味の味をカラッと揚げ
ています。

※お好み焼きは、お好み焼きの味をカラッと揚げ
ています。

※そばの実は甘皮と一緒に焼いた粉を使用して、黒く、風味の強い麺

【課題及び対応】

- ・ 健康づくり協力店登録店舗数の増加を図るとともに、巡回訪問を充実する。
- ・ 「健康づくり協力店」を通じて県民へ広く富山型食生活や食事バランスガイドを普及するため、食育パンフレット等を配付し、食育の重要性等をPRしていく。

(2) 保育所・幼稚園・学校等における食育の推進

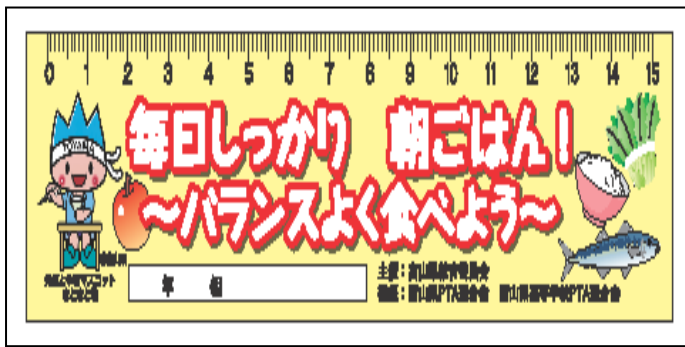
	H25 実績	H26 実績	H27 計画
①毎日しっかり朝ごはん事業の推進 (県内全小・中・高校生及びその保護者を対象)	朝食摂取への意識の高揚と実践化の普及啓発を図った。	朝食摂取への意識の高揚と実践化の普及啓発を図った。	事業内容を工夫し継続実施する。

【取組実績】

・平成 26 年度は、朝食の役割や朝食摂取の習慣を身に付けることの大切さを啓発するため、「毎日しっかり朝ごはん！」のキャッチフレーズと、ご飯を食べている「きときと君」(元気とやまマスコット)のイラストを印刷した食育啓発ものさしを作成して、県内の小・中・特別支援学校の全小学 5 年生・中学 2 年生に配布し、食に関する指導の推進に努めた。年度末には、「学校給食とやまの日」や「全国食育週間」等を意識できるように、食育啓発カレンダー (H27.4~H28.3) を県内各小・中学校に配布した。また、食育の日などを通じ、学校・家庭・地域が連携を図り、取組を推進した。

○食育ものさしを用いた食育啓発運動(小・中学校)

○「カレンダーの上部(体温上昇の効果)」食育啓発教材



【課題及び対応】

・バランスのとれた朝食の摂取を進められるよう学校にする。

	上
②栄養教諭を中核とした「望ましい食習慣づくり」の推進	栄養



【取組実績】

・平成 26 年度は、栄養教諭が配置されている富山県内各地区において、教科や特別活動における指導の充実、食に関する指導の連携調整など、地産地消の啓発や食育の推進を行った。

・栄養教諭の配置校では、各校の児童生徒の実態や発達段階に合わせて、計画的・継続的な食に関する指導が実施できるようになった。栄養教諭による保護者向けの講演や授業参観での親子学習、食育だよりの発行等により、食育の推進について P T A や地域への啓発を図った。

・地場産のよりよい食材を使った調理の体験活動を多くの学校で行うことができた。その中で、食材を選ぶことの大切さや感謝の気持ちをもって食べる心を育むことができた。

○栄養教諭と担任による授業風景



○さつまいもの栽培体験（定植・収穫） ○地場産物を使った親子料理教室「ハトムギ入りごはん 栗きんとん 等」



○「スーパー食育スクール事業」〈二塚小学校（高岡市）〉

- ・全学年で食育に関する親子ふれあい活動を実施した。4年生は校区の農園でヤギの乳搾りを体験した後、農園製造のカッテージチーズや旬の野菜を使って、チーズ焼きごはんと白雪サラダ作りを楽しんだ。5年生は鱈の寿司作り、6年生は地引き網と大漁鍋作りを体験するなど、親子のふれあいを深めるとともに、新鮮で安心な地場産物を味わい、感謝して食べるという貴重な機会をもつことができた。
- ・5年生は総合的な学習の時間に「米・米プロジェクト in 二塚」と題して、JA二塚の方々の指導の下、学校田で米を育てる体験を継続して行った。米を育てる苦労や喜びについて理解することに加え、社会科の食糧問題について繋げて話し合い考えを深めるなど、有意義な学習とすることができた。また、全学年で学習との関連を図りながら、年間を通して季節の野菜の栽培活動を行った。このように、地域と連携した生産活動を充実させることによって、食べ物と食を支える方々への感謝の心を育むことができた。
- ・望ましい食習慣を児童が主体的に形成できるように、夏休み中に「わが家のおすすめ朝ごはん」レシピを募集し、レシピ集を作成した。また、校区の全家庭に配布し啓発することを通して、地域を巻き込んで食育を推進することができた。



○親子ふれあい活動（ヤギの乳搾り） ○生産体験活動の充実 ○物産レシピ集の作成・配布

【課題及び対応】

- ・平成 27 年度は、栄養教諭を 1 名増員して、30 名を県内全市町村に配置し、家庭や地域と連携しながら、一層の食育推進に努める。
- ・また、平成 27 年度は、栄養教諭を中心に学校給食をモデルとした献立パンフレットを作成し、県内全小・中学生に配布して親子料理教室で活用するなど、家庭での望ましい食生活の実践化を推進する。
- ・栄養教諭配置校では、農林水産業や伝統料理など地域の食文化に対する児童・生徒の理解を深めるため、地域の食文化の特徴を活かした「食材の生産段階から望ましい食生活の実践」までの一貫した学習を地域の農林水産業者や食育関係者などと連携して推進する。
- ・平成 27 年度に、本県の農業の特徴と食文化・郷土料理などを紹介する小学中学年向けの副読本を作成する。

3 家庭を中心とした食育を地域社会でもしっかりと支援

(1) 地域で支えあう食育の推進

		H25 実績	H26 実績	H27 計画
①食育リーダーの養成・派遣	登録者数	42 人	43 人	43 人
	派遣回数	49 回	49 回	40 回

【取組実績】

- ・食育の推進を図るため、管理栄養士、医師、調理師、食生活改善推進員、農業生産者など「食」に関する知識を持つ方々を「富山県食育リーダー」として養成・登録し、関係機関、団体等が主催する講演、研修会等に派遣した。(富山県栄養士会へ委託)

○食育リーダーによる食に関する研修会



【課題及び対応】

- ・様々な分野で活躍する食育リーダーのさらなる養成登録を推進するとともに、食育リーダーの活用の周知を図り、効果的な派遣を行う。

		H25 実績	H26 実績	H27 計画
②ヤングファミリーに対する食育講座の開催	派遣回数	19 回	31 回	25 回程度

【取組実績】

- ・ヤングファミリー（若い保護者世代等）を対象に、食と健康や正しい食習慣に関する知識、家庭における食育の取組み方法等を紹介する食育講座に講師を派遣した。
- ・野菜摂取の促進と生活習慣病予防を目的としたヤングファミリーを対象とした食育推進イベントを2回開催し、食事診断・栄養指導、健全な食生活の啓発等を行った。

【課題及び対応】

- ・子どもの食育の実践には、その保護者の理解・実践が必要であることから、ヤングファミリー（若い保護者世代等）を対象とした取組みを継続する。



	H25実績	H26実績	H27計画
③とやま子育て応援団制度の推進	2,404 店舗	2,326 店舗	2,400 店舗以上

【取組実績】

- ・子育て家庭のふれあいやコミュニケーションを深める機会を提供する「とやま子育て応援団」制度を推進し、「家族そろっての食事」の普及・啓発を図った。
（実施時期：主に、毎月の「とやまふれあいウィーク」（「とやま県民家庭の日」（毎月第3日曜日）から始まる1週間）の期間中）

【課題及び対応】

- ・とやま子育て応援団制度のさらなる利用促進や、協賛店の定着・増加に努めるため、雑誌やホームページなど各種広報媒体によるPRを行う。
- ・協賛店・利用者双方にとって満足度の高い制度を目指すため、協賛店、利用者、市町村、県による意見交換会を行う。

	H25実績	H26実績	H27計画
④地域食育推進体制強化事業の推進			
ア) 食育推進連絡会の開催	6回	5回	5回程度
イ) 食育指導関連教材の整備・貸与回数	63回 (教材数 110)	106回 (教材数 147)	100回程度
ウ) 食育に関する出前イベントの開催	実施回数	7回	15回程度
	参加人数	745人	1,000人程度

【取組実績】

- ・各厚生センターが中心となり、食にかかわる関係機関、団体等と連携し食育に関する共通理解を深めるなど、地域における食育推進体制の強化充実を図った。

具体的な事業内容

- ア) 食育推進連絡会の開催
- イ) 食育指導関連教材（フードモデル、紙芝居、パネル等）の整備と貸与
- ウ) 学校、保育所、公民館等での食育に関する出前イベントの開催

○食育推進連絡会の開催 ○出前イベント



専門学校での出前イベント

専門学校での学園祭に対する出前イベント



保育所での出前イベント

スーパーマーケットでの出前イベント

【課題及び対応】

- ・食育推進連絡会を中心に地域での連携をさらに推進するとともに、スーパーマーケット、飲食店、事業所等様々な場所での出前イベントの開催や、食育指導関連教材の紹介により、食育推進体制を強化する。

	H24 実績	H25 実績	H26 計画
⑤ バランスアップ健康プロジェクトの実施	民間産業との連携	民間産業との連携	民間産業との連携

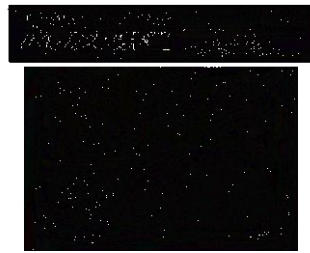
【取組実績】

- ・ 民間産業と連携したバランスアップ健康プロジェクト事業を実施し、県内スーパーマーケットと連携した栄養バランスに配慮したお弁当の共同開発や社員食堂と連携したメニュー改善の取組み等を行った。
- ・ 県民の課題（野菜不足・食塩過剰）に対応した食の健康情報を県ホームページに掲載するなど、幅広い情報提供に努めた。
- ・ 食環境整備のための講習会を実施し、県民の食環境に携わる関係者の意識の向上を図った。

具体的な事業内容

- ア) バランスアップメニュー開発支援
- イ) バランスアップアクション
- ウ) バランスアップ情報発信

〇バランスアップメニュー開発支援



《食環境整備講習会の開催》

【日時】 平成27年3月17日

【内容】 事例紹介「とやまごころごはんの取組み」

発表者 公益社団法人富山県栄養士会 事務局長 荒木 麗子 氏
 レストラン小西 代表取締役 小西 謙浩 氏

講演 「個人の食生活改善と社会全体での食環境整備健康寿命延伸と幸せな社会の実現に向けて」

講師 女子栄養大学・大学院 食生態学研究室
 教授 武見 ゆかり 氏

〇バランスアップ情報発信 県ホームページによる情報提供

健康づくり通信

健康づくり通信 1巻 (P1-133-142)

健康づくり通信 2巻 (P1-143-152)

健康づくり通信 3巻 (P1-153-162)

健康づくり通信 4巻 (P1-163-172)

健康づくり通信 5巻 (P1-173-182)

健康づくり通信 6巻 (P1-183-192)

健康づくり通信 7巻 (P1-193-202)

健康づくり通信 8巻 (P1-203-212)

健康づくり通信 9巻 (P1-213-222)

健康づくり通信 10巻 (P1-223-232)

健康づくり通信 11巻 (P1-233-242)

健康づくり通信 12巻 (P1-243-252)

健康づくり通信 13巻 (P1-253-262)

健康づくり通信 14巻 (P1-263-272)

健康づくり通信

知っていますか？健康寿命って何？

健康習慣の4つのポイント

健康的な食生活のための「Healthy Lunch」レシピ (4月)

生魚のムース

クリームパスタ

【課題及び対応】

- ・ 民間事業所と連携し、メニュー改善に向けた取組みをさらに推進、拡大する。
- ・ 健康・栄養情報を県ホームページに掲載するなど幅広い普及啓発を継続する。

		H25実績	H26実績	H27計画
⑥若者を対象とした食育指導の充実	セミナー(講習及び調理実習)の開催	2回開催 50人参加	1回開催 30人参加	若者向けレシピ集などを活用し、食育講座やイベントでの普及啓発
	食育啓発イベントの開催	2回	イベントでのブース出展 7回	

【取組実績】

- ・学生や20-30歳代の社会人を対象として、栄養バランスの良い食事と健康についてセミナーを開催し、健全な食生活の啓発を行った。
- ・若者が多くあつまるイベントにおいて、食習慣のチェックなどを行うブースを出展し(7回)、食育啓発を推進した。
- ・朝食を欠食しがちな若者向けに、栄養バランスのよい朝食レシピのコンテストを行い(応募数:105件)、「若者向け簡単朝食レシピ集」を作成した。

○若者食育セミナー



○食育啓発ブース



○若者向け朝食レシピ集



【課題及び対応】

- ・各地域の食育講座やイベントにおいて、食育関係団体の「若者向けメニュー」や「若者向け簡単朝食レシピ集」などを活用し、若者に対する食育啓発を引き続き行う。

(2) 食品の安全確保


	H25 実績	H26 実績	H27 計画
①食品安全フォーラム等の開催	3 回	2 回	2 回

【取組実績】

- ・食品安全情報をわかりやすく解説するとともに、県民との意見交換を行う食品安全フォーラム等を開催した。

「食品安全フォーラム in とやま～比べてみよう！『効果』と『リスク』～」
 (平成 26 年 8 月 4 日開催、とやま自遊館、参加者約 160 名)



- ・講演 1 「食べたものはどこに行く？過剰摂取のリスク～脂質の例～」
 (講師：内閣府食品安全委員会 山添 康氏)
- ・講演 2 「健康食品の実態と安全性・有効性」
 (講師：独立行政法人国立健康・栄養研究所 梅垣 敬三氏)



- ・東日本大震災被災地に対する消費者の理解や応援する心が復興の大きな鍵となることから、県民が被災地生産者等の声に直に触れ、被災地産品の安全性を実感する「食の安全・安心フェア～今、富山からできること～」を開催した。

「食の安全・安心フェア～今、富山からできること～」
 (平成 27 年 3 月 8 日開催、フューチャーシティー ファボーレ、参加者約 2,500 名)

- ・食の安全・安心セミナー「食と農の再生～ふくしま再興～」
 (講師：ラジオ福島アナウンサー 深野 健司氏)
- ・お笑い芸人「母心」トークショー「食べて応援！Made in ふくしま」
- ・福島県産品の試食・販売コーナー
- ・パネル展示&応援メッセージコーナー
- ・その他 (ゆるキャラ&ジャンケン大会、クイズラリー等)

【課題及び対応】

- ・食品安全フォーラム及び意見交換会等を開催し、リスクコミュニケーションの強化を図る。

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
②とやま食の安全・安心情報ホームページの運営 (アクセス年間件数)	24,074 件	26,526 件	36,000 件

【取組実績】

- ・県内の食中毒発生や食品安全フォーラムの開催内容など、適時的確な情報提供に努めるとともに、より見やすく分かりやすいホームページとするため、関係情報の整理等を行った。

【課題及び対応】

- ・適時的確な情報提供、内容の更新に努め、欲しい情報がよりスムーズに得られるよう工夫するとともに、ホームページの認知度向上に努める。

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
③食品表示講習会の開催	4 回	3 回	4 回

【取組実績】

- ・関係団体へのパンフレット等の配布やホームページでの情報提供を行うとともに、業界団体等を対象とした食品表示講習会（3 回）の開催や、食品表示ウォッチャー講習会（4 回）等への講師派遣により、適正な食品表示の周知に努めた。



食品表示講習会の様子

【課題及び対応】

- ・食品表示に関し関係団体に対し情報提供を行うとともに、講習会や研修会を通じて制度の周知に努める。

	H25 実績	H26 実績	H27 計画
④食品表示ウォッチャー調査店舗数	1,044 店舗	1,117 店舗	1,320 店舗
⑤食品表示ウォッチャーの食品表示実態調査等における適正な店舗の割合	96.0%	97.3%	100%

【取組実績】

- ・県内小売店における食品表示の実態を把握するため、消費者からなる「食品表示ウォッチャー」（31 名を委嘱）を配置し、ウォッチャーに対する研修会を 4 回実施するとともに、日常の買い物の中で小売店の食品表示の実態を調査した。
- ・また、不適切な表示が認められた店舗については、担当職員が立入調査を行い、適正な表示を指導した。



食品表示ウォッチャー

【課題及び対応】

- ・食品表示ウォッチャーによる調査を通じた監視体制の強化に努める。